## 第１４章　活動性の分析

本日のテーマ

① 活動性とは？

② 回転率と回転期間は逆数の関係
試験では回転率を重視しよう

③ 資本回転率
総資本回転率
経営資本回転率
自己資本回転率

④ 資産回転率
棚卸資産（材料貯蔵品含む）回転率→未成工事支出金回転率
受取勘定回転率→正味受取勘定回転率（受取勘定－未成工事受入金）
固定資産回転率

⑤ その他

負債回転率

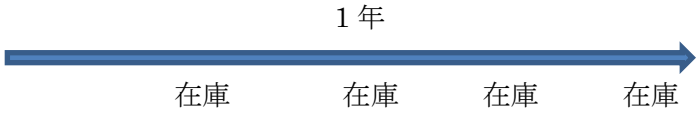
キャッシュコンバージョンサイクル

① 活動性とは？
調達した資本やその運用たる資産がどの程度運動（活躍イメージ）したかを示す

② 回転率と回転期間は逆数の関係

回転率（とあるが回数で表す）→一定期間に何回入れ替わったか（資産の利用度等）を表す

回転期間（月数や日数）→資産などが１回転するのに要する期間（新旧の入れ替えにどの程度の期間がかかったか）




１年間に在庫が 4 回入れ替わる

回転率＝12 か月÷3 か月＝4 回転
回転期間＝12 か月÷4 回転＝3 か月
逆数の関係

実務では回転期間（発生してからなくなるまでの期間）の分析が重要
試験では回転率がよく出る

③ 資本回転率
回転率の分子は完成工事高（実際には回収額や消費額だが、試験では完成工事高）

★総資本回転率（完成工事高／総資本の平均）
鉄鋼業 0.6、建設業 1.0
総資本の活動効率を示すので大きい方が良い

★経営資本回転率（完成工事高／経営資本の平均）
経営資本＝
総資本－ケントク（建設仮勘定＋投資その他の資産＋繰延資産）－未稼働資産

★自己資本回転率
これが高い→効率は良い→But 自己資本比率が低い→負債が多い→金利負担が大

④ 資産回転率
棚卸資産（材料貯蔵品含む）回転率→未成工事支出金回転率
受取勘定回転率→正味受取勘定回転率（受取勘定－未成工事受入金）
固定資産回転率

⑤ その他

負債回転率

キャッシュコンバージョンサイクル

＜マトメ＞
練習問題

14.1 回転率と回転期間の相違（例示）

売上高 365 万円　棚卸資産 100 万円
棚卸資産回転率 3.65（在庫の運用効率なので高い方が良い）
棚卸資産回転期間　100 日（在庫の保有日数なので短い方が良い）

14.2 一般製造業での製品の回転分析→回転率と回転期間の算定方法の論述
14.1 と同じ

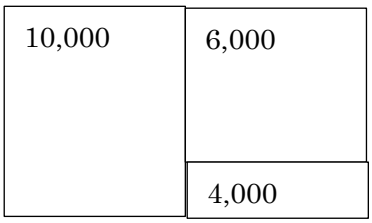
14.3（難易度高い）

総資本回転率＝完成工事高／総資本
悪化要因は売上高の低下、または総資本（各資産・負債）の増加
∴回転率の減少、回転期間の長期化が悪化要因

固定資産回転率＝完成工事高／固定資産
　4.5 回→4.8 回　プラス要因
買掛債務回転率＝完成工事高／買掛債務
　18 回→15 回　マイナス要因
売掛債権回転期間＝売掛債権／（完成工事高÷12）
　4 か月→3.2 か月　プラス要因
未成工事支出金回転期間＝未成工事支出金／（完成工事高÷12）
　2.5 か月→3 か月　マイナス要因

よって、買掛債務回転率と未成工事支出金回転期間が悪化要因

★間違っていた。「買掛債務回転率は直接の原因にならない」とのこと
＜検証＞




売上高 20,000 とすると
買掛債務（仕入／買掛金）が 8,000 になると純資産が 2,000 減る→総資本に変動なし

14.4
Ⅰ　4.8 か月
Ⅱ　4.34 か月
Ⅲ　6 か月
全体　5. 15 か月

14.5
問 1
流動資産→2,800,000、当座資産→1,200,000　∴棚卸資産＝1,600,000
∴完成工事高＝6,400,000

問 2
完成工事高経常利益率＝0..04 は変わらない
∴総資本回転率を 1.75 にする必要がある
∴Ｘ／200＝1.75　Ｘ＝350 千円

14.6
問 1
総資本回転率→2.10 回
棚卸資産回転率→（297,312＋31,613）／（3,489,901÷12）＝1.13 月

問 2
1 低く（エ）　2 回転率（ソ）　3 多く（ア）　4 短く（カ）　5 多く（ア）
6 売掛債権（キ）　7 短く（カ）　8 低く（エ）　9 棚卸資産（シ）
10　長く（オ）